

シャイン 076号

頼り、頼られる笑顔の「協働」を目指して

大石 静さん

会社名：株式会社テルベ

(セブン&アイホールディングス特例子会社) 総務部

役職：アシスタントマネジャー

ノーマライゼーション啓発プロジェクトメンバー

資格等：産業カウンセラー、障害者職業生活相談員

企業在籍型職場適応援助者（ジョブコーチ）

第一種衛生管理者



【受講のきっかけ】

職場で障害者職業生活相談員を担い、18年になります。障がいのある社員とその周囲の誰もが職場で楽しく生き活きと活躍できることを目指し、仕事や生活、人間関係の悩み等に耳を傾けています。困りごとが生じたら誰でも気軽に相談できるよう、受け入れ時間を定めずにいつでも相談に応じています。そのため、じっくりと相談室で聴くこともあれば、現場や廊下ですれ違いざまに話が始まることもあります。

相談業務を通じて、職場では悩みや困りごとがたびたび発生することを痛感しました。それらを解決したい、どの立場の人でも働きやすいと感じるような職場を目指したいと考えております。

しかしながら、組織への働きかけにはそれなりの知識と経験が必要です。自分なりに試してみたものの、力が及ばず焦燥感を抱えていました。

そのような折、親会社の方から「産業カウンセラーを目指してはどうか」とお話をいただき、初めて産業カウンセラーの存在を知りました。試しにパンフレットを取り寄せると、声をかけて下さった方の顔写真とコメントが掲載されており、強いご縁を感じました。また、産業カウンセラーの役割はまさに職場に必要な領域であることが分かり、すぐに養成講座の受講を申し込みました。

【資格取得後の活動状況】

資格取得後はストレスチェックやエンゲージメント調査の結果分析や改善施策を検討する会議に出席させていただいております。会議では相談業務で認知した個々の状況を踏まえつつ、職場で今、何が必要とされているのかを上長らと討議しました。

多様な相談内容から会社の在りようが垣間見え、個々が感じ取る会社像は様々であることが分かります。内容は、例えば作業場の環境、工程、道具、作業指示、人員配置、他者の言動、体調、生活面など多岐に渡り、それら一つ一つの出来事が本人にとっては心を占める大事であり、そのことからストレスを抱えてしまう可能性があるため、「傾聴」を土台に相談者の話に丁寧に耳を傾けています。

誰かの困りは、改善に役立つ大切なヒントであることに気づかされます。また、素晴らしい改善提案が語られることもあります。対話を通じて働く人々と会社の架け橋となって、どの立場の人にも「働きやすく、活力が湧いてくる会社」であるよう、職場の環境調整に努めたいと考えています。チームの成長に対するひたむきな情熱が相談者から伝わってくることも多く、誰もが笑顔で意欲的に働ける職場環境を保つために、私にできることは何でもやりたい、と日々思いを新たにしています。